

震災、引越し後、リウマチを発症された方。
発症した経緯とその後の生活や心境について。

「リウマチとヘルペス 途中経過」 匿名希望

37 歳

2016 年 3 月 14 日

何から書こう……。松本医院の治療の素晴らしさはもちろん書くとして（笑）でも、どうしてこんな病気になったのかも、長くなるけど記録しておきたい。私が松本医院で最初に手記を読んで、共感し、安堵した時と同じように、誰かの安堵に繋がるように。

私は関東の自分の実家敷地内に夫と子供二人と住んでいた。2011年3月。大きくて長い長い揺れが起こったが、幸い地震の直接的な被害はさほどなかった。食器棚が倒れたり、何日か断水した。それよりも、津波のニュースと原発事故には心が痛んだ。子供達がまだ小さいので原発の事故が気掛かりだった。父も兄も医療関係者だったため、情報が入った。すぐにでも子供を逃がしたいと思った。津波でひどい被害にあった人々もいるのに、生きているだけでもありがたいはずなのに、でもどうしても、自然災害ではない、人間が作り出した事故に巻き添えになったようないらだちが拭えなかった。

そこへ、千葉の水が汚染しているという報道が流れた。うちからそう遠くない地域だ。テレビでは1歳以下の子供がいる家庭にはミルク用にペットボトルを支給していた。当時下の子は、1歳半。この子はもらえないのだな、と思った。まだ母乳を飲んでいるのに……。助けるのは国じゃない。自分でどうにかしなきゃいけないのだと、思った。子供達も今までなかった嘔吐、続く下痢、目やに、じんましんなどがあり、その度に放射能も一因なのでは、と訝しかった。日本に対する漠然と抱いていた信頼はどんどん崩れていき、ネットで知ることとテレビや新聞ではこうも情報が違うのかと、思い知った。いかに今まで勉強しておらず、無関心であったかを猛省した。

それから、毎晩子供を寝かせたあとは、ネットや本で調べまくる私と、家族（夫、父）との間に意見の食い違いが出始めた。何があっても腹を据えようと覚悟している人と、未来ある子供だけはどうしてもなんとかいい選択をしてやりたいと願う母親の気持ちのすれ違いだった。しばらくして、よく子供を連れて遊びに行く公園に立ち入り禁止の黄色と黒のテープが貼られた。何を意味す

るか、すぐに分かった。そこだけ放射線量が高いのだ。

2012年9月、関西に引っ越した。山と川がすぐその、素敵な場所だった。気掛かりだったのは、実家でよくしてくれた父だった。何よりも、子供達を可愛がってくれていた。半ば孫が生き甲斐になっているのは一目瞭然だったから、引っ越してしまうのは相当悲しむだろうと思われた。父はすぐに体調を崩して入退院を繰り返し、2014年1月に亡くなった。思えばこの時から、少しずつ自分の調子が悪くなっていったように思う。

葬儀の日は関東が大雪で車も電車もストップ。お葬式の前に雪かきをし、歩いて斎場に行くという事態だった。関西に戻ってしばらくすると足の裏側と手首が痛み始めた。(雪かきのせいと思っていた。) 私は引っ越してすぐから、自治会総務書記、子供会会計、会長と立て続けに役に当たってしまい慌ただしい毎日だった。

2015年、子供会会長と幼稚園役員兼務の年。6月上旬 子供会行事の日の朝起きると、突然左鎖骨から首を通り肩にかけて激痛に襲われ、慌てて整形外科に行く。肩が上がらないので車のハンドル操作はほぼ右手で運転。関西に越して来て、3年目。病院をあまりよく知らず、近くの整形外科で見てもらった。症状を伝えてレントゲンを撮ったが、特に異常は見られず。医者も何だか分からず。「流行りだかなんだか知らないけど、ヨガなんかやるからだ」なんてヨガのことも私のこともよく知りもしないくせに言い、とりあえずの湿布が処方されたが、家に腐るほどあるから要らないと断る。とんだ医者にかかった…。子供らを朝早くから友人に頼んでやっと来たのに、時間の無駄だったと思いつつ、言われたようにヨガのせいだったのかな・・・とも考え、湿布で様子を見ることにした。

湿布など効いているのか効いてないのだから分からないくらいずっと痛い、行事をなんとか遂行。家に帰り頭もずっと痛いので熱を計ると39度もあった。きっと熱による関節痛なんだと思った。湿布は効き目がよく分からないので貼るのをやめた。しばらくは家事と子供のことはなんとかしつつ、休み休みしているうちにましになってきたので、6月中旬、幼稚園役員の仕事の母親交流バレーボール大会に参加。(キャプテンだったため) 次の日、左足親指が腫れあがり、痛くて足がつけない。調子悪いのにスポーツなんかしたから怪我をしたのだと反省。あとから思えば、怪我なら怪我した時に気付くはずであった…。

7月中旬、台風の日、また同じ場所に激痛。それに加え左顎と左手首にも激痛。口は開かないし、左手で物が持てない。今度は友人に教えてもらった評判のいい整形外科に行った。これまでの経過を話すと、鎖骨の痛みは掌蹠膿疱症の可能性、肩は四十肩、手首はリウマチも疑われるから血液検査しましょう、とすぐに話してくれた。「痛みはロキソニン出すね」と言われた。私が、薬をあまり飲みたくないと言うと、「騙されたと思って5日間飲んでみて」と笑っていた。検査結果がわかるまで、ロキソニンを飲む。痛みが楽になった。つらい症状を感じさせなくするだけの薬という認識だったので、治ったのではないと分

かっていたが、ずっとあった痛みがなくなったのは嬉しかった。5 日後、血液検査結果は RF 85 で、リウマチの可能性がある、とのこと。炎症反応は低かったので、確定は難しいと言われ、引き続きロキソニンで様子を見て一ヶ月後に再検査しましょう、ということになった。リウマチが気になるなら、専門医を紹介することもできるよ、とも言われた。自覚症状から、リウマチなのだろうなと思った。一生治らない、ということも聞いたことがあり、悲しい気持ちになった。紹介してもらう前に、専門病院でどんな治療をするのが一般的なのか調べた。でた！ステロイド！怖いものだというイメージを持っていたので、困った。これを使うのは嫌だな……。最新の薬もあるらしい。生物製剤を調べると、免疫が落ちて感染症になる可能性が！これもものすごく恐ろしいじゃないか……。 (涙) しかもどんな治療をしても、寛解……と書いてある。完治という言葉は見つからなかった。なんだか調べるほど絶望感しか沸かなく、考えるのを保留にした。その後は家で自分でやっている仕事や、幼稚園の行事などをこなしたが、ロキソニンを飲んでも痛みを抑えられなくなってきた。治療を保留にしてはおけないと、ダルい体を起こしてパソコンに向かう。ロキソニンを5日以上飲んでも痛みはぶり返したので、元の整形外科に行くつもりはなかった。「ステロイド使わない リウマチ治療」と検索すると、松本医院の名前が出てきた。治ると言い切っている。しかもステロイドは絶対使うなとも言っている。すがりたい気持ちでいっぱいだった。熱もあるし、体も痛いし、夜中だったが、必死に院長先生の理論を読んだ。

大阪、とあり、嬉しくなった。近くにこんな病院があるなんて。朝になったら、とにかくここに行こう、と決めた。しかし、家族の協力が絶対に必要というのだけが不安だった。震災後、夫は私の言うことをまともに受け付けてくれなくなっていた。なんとか懇願し、一緒に付いてきてもらったが、案の定、嫌な顔をしていた。病院の方針が書かれた書類や患者さんの手記（自分とまったく同じような症状の方の手記）を読んでほしいとお願いしたが駄目だった。そんな夫を、院長先生の力で変えて欲しい気持ちもあったが、これは自分で解決しないとならない問題なのだな……。と思う。

初診で院長先生は、ほかのリウマチの病院に行かず松本医院にまっさきに來たことを褒めてくださった。症状を話すと、「それは立派なリウマチや。ヘルペスもあるな。ストレスや。大丈夫。必ず治る。」ストレス、という言葉をお医者さんから聞いて、なぜか涙が溢れ出てきた。こちらが何を言ったわけでもないが、「あんたは賢い！大丈夫。何も心配はいらない。必ず治る。治すのは誰？」と院長先生。私が戸惑いながら、「自分……？」と言うと、「そうや！あなたの何が治すの？」「免疫？」「そうや！！！！よーく勉強してや！大丈夫。何も怖くない！！！」そう言って、力強く握手してくれた。8 月の始め、こうして松本医院に通い始めた。

処方された薬

・大防風湯・治打撲一方湯・アシクロビルの3種類。

そして自分で行うお灸と、針に通うこと。なんて値段が高いのだ・・・早く良くならなければ・・・。ヘルペスの薬は院長先生がお怒りになっているように、本当に保険薬として認可が下りればなあ、とつくづく思う。本当に患者のためになるいい治療に、保険制度は使えないのだ。

初めての煮出しによる漢方薬の味には戸惑ったが、これが痛みを和らげてくれ、免疫を上げてくれるのだと思えば飲める！現に、慣れてくると、甘みを感じて、普通のお茶のように飲めるようになった。ロキソニンをやめて漢方に切り替えてはじめての3日間は非常に体が痛く、怠く、昼間も横になってしまう日が続いた。夏休みなのに、子供の世話などもできず、辛かった。3日を過ぎると、だんだん動けるようになってきた。すごいと思った。主人の手は借りられないので、お灸は左手首、指、足、お腹位にしかできなかったが、なんとか毎日やった。病院に行く日は針もしてもらった。(2、3週間に一度通院)

8月のお盆を過ぎた頃、急におしりに赤いポツポツができ、猛烈に痒くなった。生まれたばかりの頃にアトピーだったと聞いていたが、こんなところが痒くなったのは初めてだった。大人になってから出来たことはないけど、夏だし、あせものかな？とも思った。クラススイッチの症状だとは、なんだか信じられなかったが、先生に話すとそのようであった。9月にはその痒みもなくなった。2ヶ月経った10月初旬には、普通に生活できるようになっていた。気づけば足の指や手首の痛みはほとんどない。肩から鎖骨にかけてだけがずっと痛んでいる。天気が悪い日や、生理の前になると後頭部の痛みも出る。

11月を過ぎると漢方とアシクロビルは続けていたが、寒くなってきたのもあり、自宅でお灸をしなくなってしまった。ただ、心にも体にもストレスをかけない、ということについては色々学んでいた。考え方、自分の悪い癖を知る。夜更かししての読書やパソコンでの調べもの、演劇を観てしまうことをできる限りやらない。早く寝る、ということ、体を冷やす食品をなるべく取らない(コーヒー、砂糖、乳製品など)小麦製品を減らす(これらは先生に言われたわけではない)温かい湯船にゆっくり浸かる。役員の仕事も今までは自分がやる、と言っていたものを、みんなにお願いすることを考えた。後、忘れてはならない、楽しく笑うこと！これはとても大事だと思う。

12月、ヘルペスの数値は最初の半分以下になった。「リウマチは治ったな。あとはヘルペスや！」とのこと。症状も落ち着いてきているので、途中経過の手記を書きなさい！と院長先生に言われた。

年が明けて2016年2月、残っている症状は肩、鎖骨の痛みと、左顎の痛み。これは、軽くなったり、少し痛んだり、を繰り返している。顎に関しては顎関節症のカイロプラクティックを受けると痛みがなくなるのだが・・・。日常生活に問題はない。あともう少し、と思っている。

もっと治療と理論に関して書きなさい、と怒られてしまいそうだが(笑)私はこの病気になったのは生活の仕方と考え方が一番の原因だと感じているので、

長々と経過を書いた。ただ一つ、薬嫌いであったのは良かったのだと確信している。自分は大人になってからはあまり薬のお世話になっていない（つもり？）だが、自分の子供に関して、幼い頃はすぐ病院に連れていき、処方された薬を飲ませてしまったことについては申し訳なく思っている。今もまだまだだが、新米母は無知で未熟であった。とにかく免疫を上げる。免疫を抑制するようなものは摂取しない。下げることはやらない。そんな風にばかりは生きていけないけど、基本を忘れないことは大切だと思う。

3月。もうすぐ掛け持ちの役員も終わる。引継ぎが終われば、もう少し自分の体や心と向き合い、生活も丁寧にできるかな、と思っている。

最後に、松本医院のホームページは、院長先生が度々更新しているので、私もチェックを続けています。先生のたゆみない研究と変わらない探究心をとて尊敬しています。玄米食も家族に嫌がられて一時期断念していたけど、食べやすい発芽玄米なら続けられるかも！なんて思い、玄米を水に付けて発芽させています。松本先生の理論は、難しいけど、是非何度も読んで欲しいと思います。自分の病気はもちろん、ほかの病気もとても勉強になります。（まだまだ読めていないところもありますが）

※10年前に最初の子を妊娠中、EV ウィルス感染症にかかり、入院。極度の貧血状態になり輸血をしました。先生が書きかけている文章がとっても気になっています！

	2015.8.1	2015.9.15	2015.10.20	2015.12.11	2016.2.7	2015.3.15
血沈	38	16	14	10	6	12
CRP	0.24	0.12	0.11	0.05 以下	0.05 以下	0.37
リンパ球	22.1	23.8	18	28	23	15.8
VZV	123.2	93.5		60.6	57.2	100.4